

胚盤胞移植においてICMより TEを優先すべき

医療法人 紀映会 レディースクリニック北浜

田中舞弥 奥裕嗣 今井和美 北川晴香 篠原三佳
貴志瑞季 金森真希 山口晶子 山下莉那

第39回 日本受精着床学会総会・学術講演会 利益相反状態の開示

筆頭演者：田中 舞弥
所属：医療法人 紀映会 レディースクリニック北浜

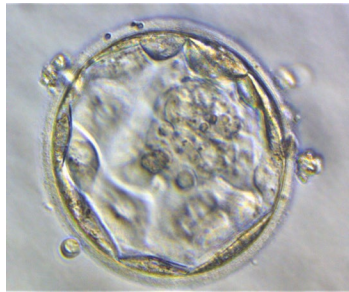
私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません

目的

近年単一胚盤胞移植が主流となり，移植胚選択の重要性が高くなっている。

胚盤胞はICMグレード，TEグレードを基に形態評価を行うが，これまで優先する移植胚の基準が確立されていなかった。

ex.) BL5AB vs BL5BA



BL4AB vs BL4BA



BL3 - 5の各発育ステージにおいて，ICMグレード，TEグレードどちらを優先して選択すべきかを後方視的に検討した。

対象と方法

期間：2010年8月から2021年2月

対象：採卵後Day5にて凍結し，ホルモン補充周期にて凍結融解単一胚盤胞移植を施行した996個

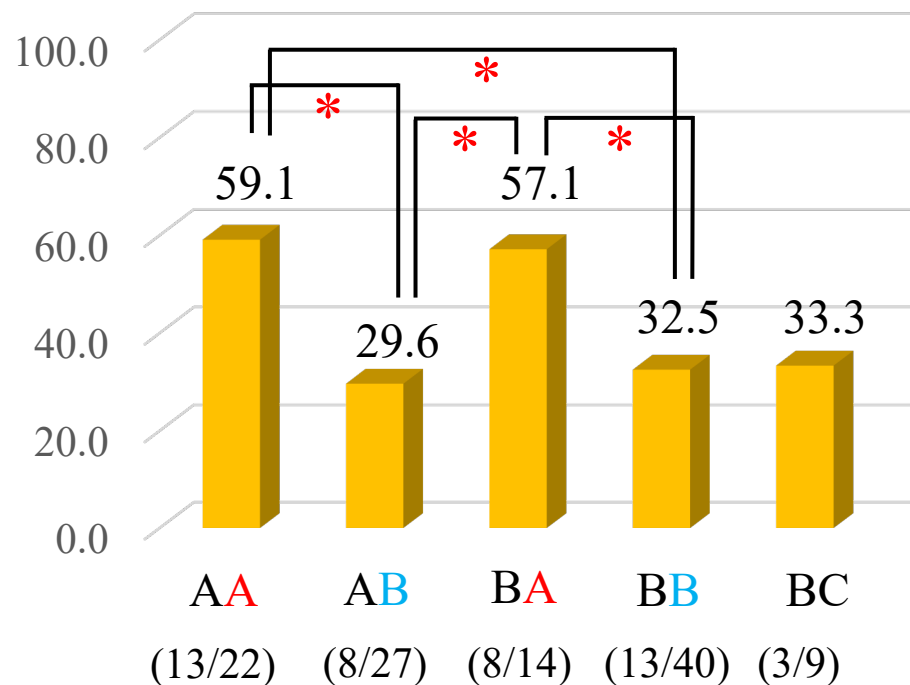
方法：発育ステージ(BL3, 4, 5)ごとにICMとTEのグレードをAA, AB, BA, BB, BCと5群に分類し，臨床妊娠率及び流産率を比較した。GS確認をもって臨床的妊娠とした。

- * 移植に供した胚盤胞はGardner分類3BC以上
- * ICMをC評価したものは除外
(これまでICM B以上を移植対象にしていたため)
- * 年齢は35歳未満とした。
- * 平均年齢と平均移植回数に有意差なし

結果①

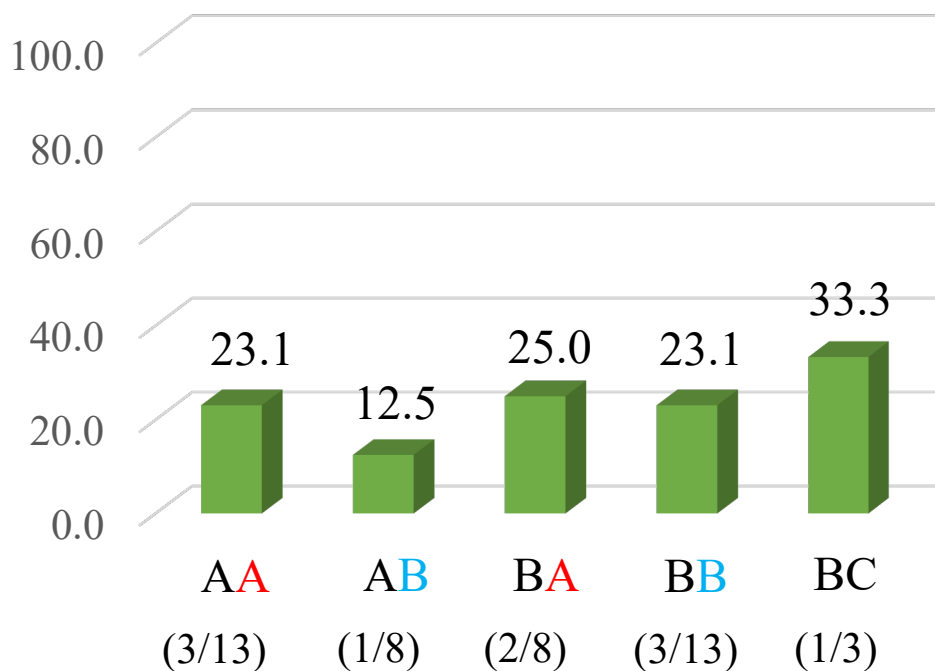
BL3における臨床妊娠率と流産率

臨床妊娠率



(* $P < 0.05$)

流産率



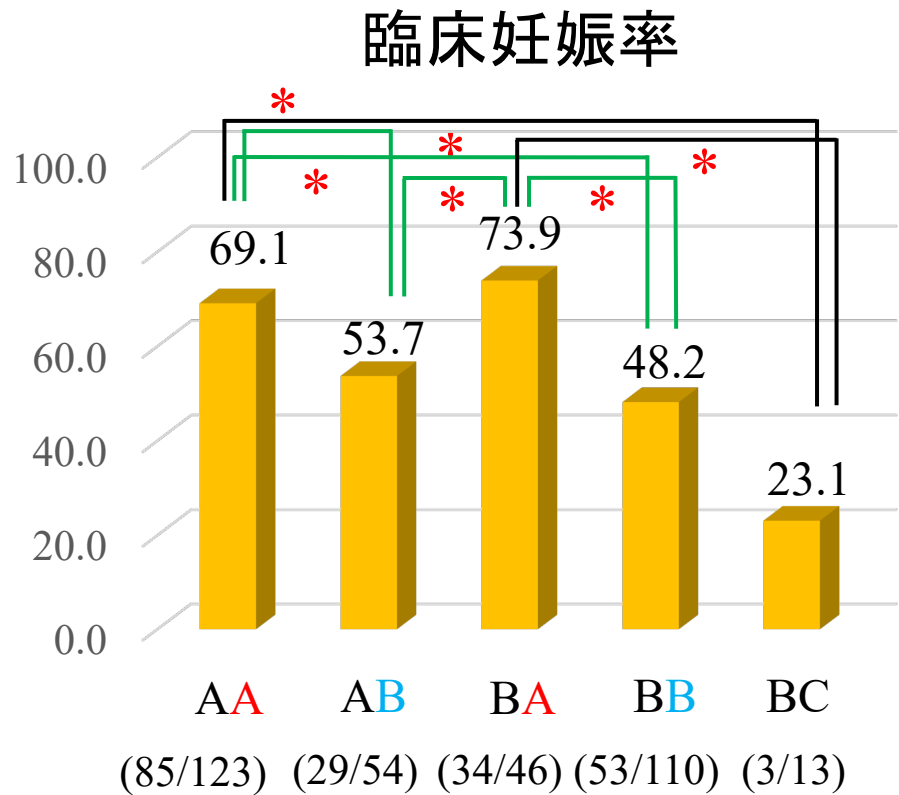
N.S.

AA vs AB, AB vs BA, BA vs BB, AA vs BB : 有意差あり

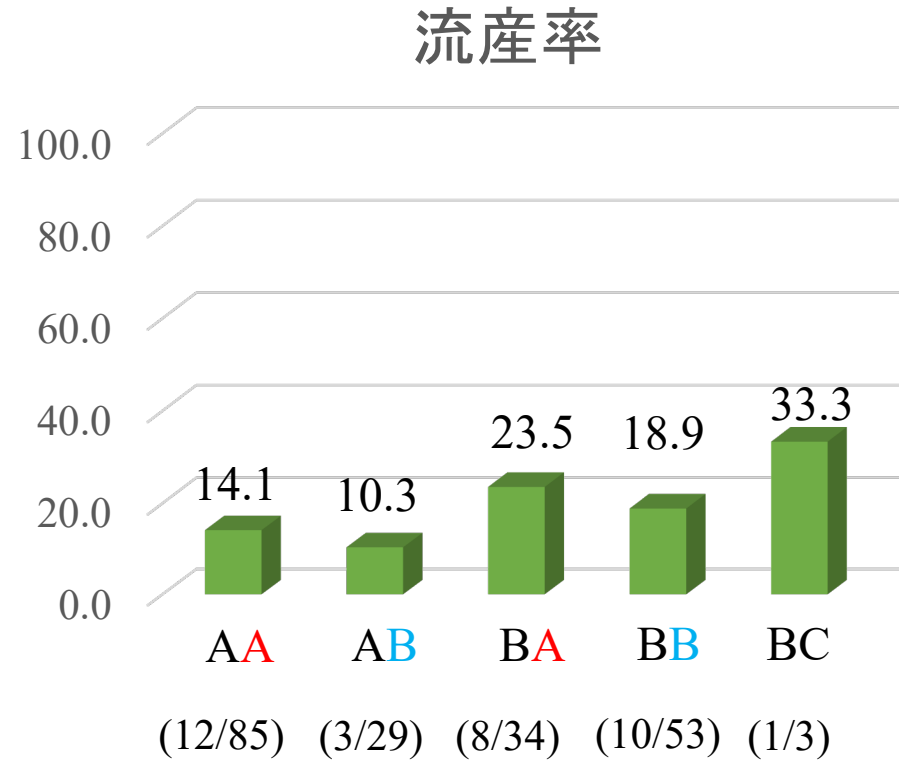
AA vs BA, AB vs BB : 有意差なし

結果②

BL4における臨床妊娠率と流産率



(* $P < 0.05$)

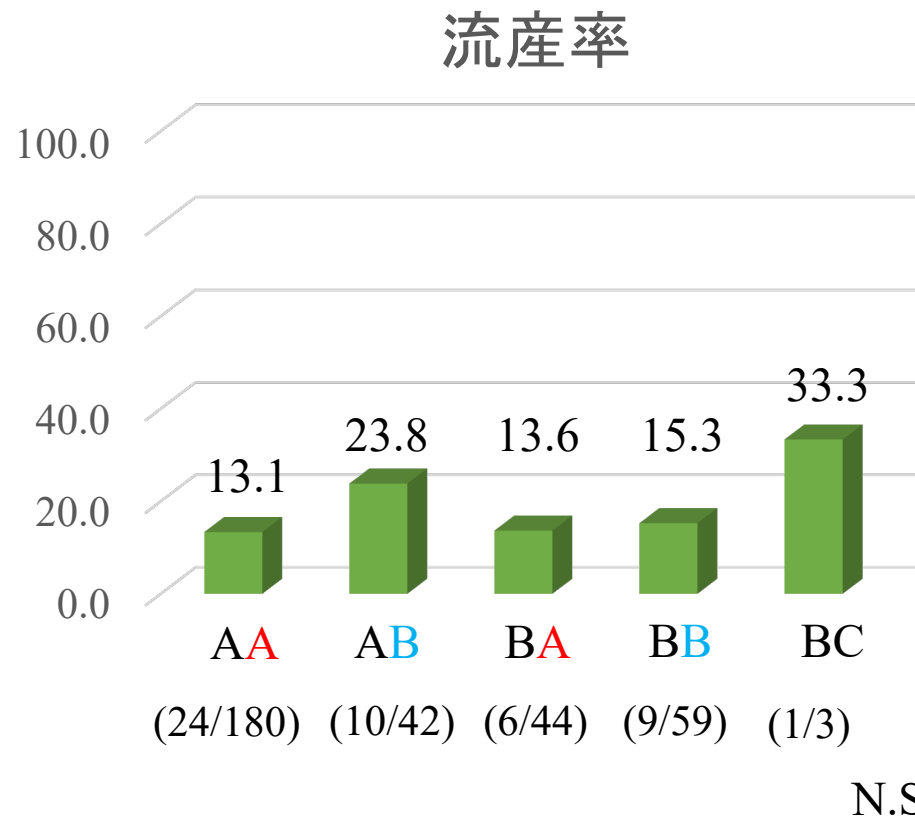
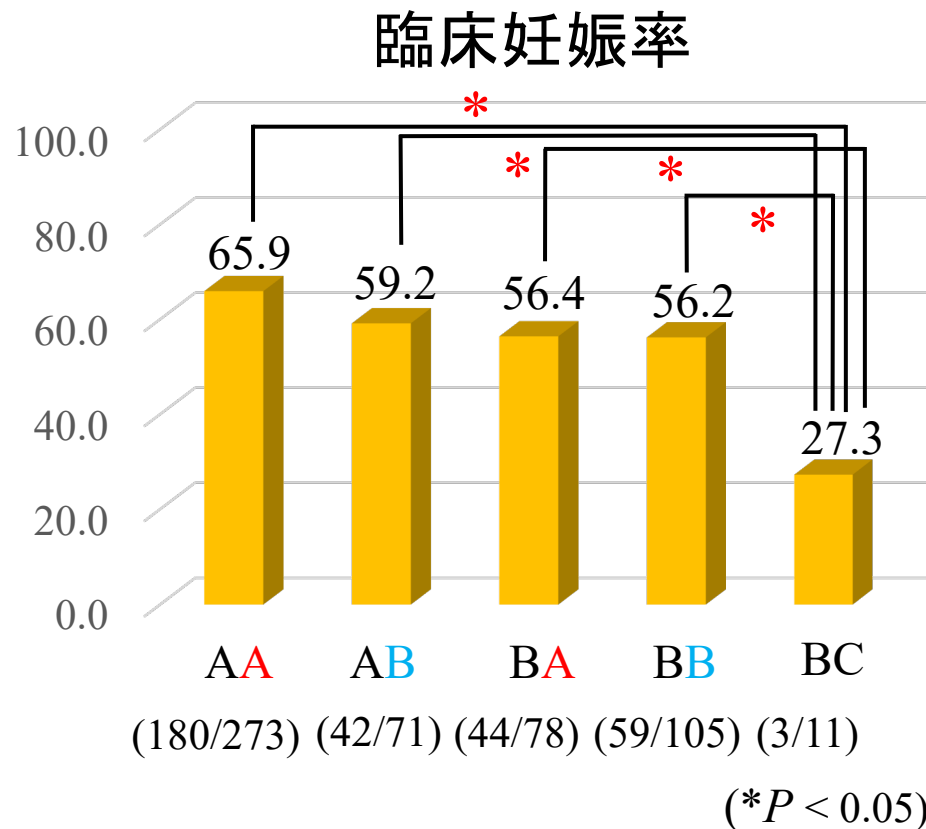


N.S.

AA vs AB, AB vs BA, BA vs BB, AA vs BB : 有意差あり
AA vs BA, AB vs BB : 有意差なし

結果③

BL5における臨床妊娠率と流産率



臨床妊娠率においてAA, AB, BA, BB で有意差なし

まとめ

TEについて

- ・ BL3, BL4において, ICMのグレードにかかわらずTEをAと評価した群はBと評価した群より妊娠率は有意に高くなった。
- ・ BL3, BL4において, 妊娠率はAB群とBA群の比較ではBA群が有意に高かった。
- ・ BL5では, グレードBB以上で有意な差がなかった。

ICMについて

- ・ BL3, BL4において, TEが同一グレードの場合, ICMをAと評価した群とBと評価した群では妊娠率に有意差はなかった。
- ・ BL5では, グレードBB以上で有意差はなかった。
- ・ BL3, 4, 5 共に全ての群で流産率に有意な差はなかった。
- ・ TEをCと評価した胚においては有意差は認めれないものの, 全てのステージにおいて妊娠率は低率だった。

考察

- ・ BL3及びBL4の臨床妊娠率の結果より，移植胚の選択においてTEの細胞数がICMの評価より重要である可能性示唆された。
- ・ BL5ではBB以上で臨床妊娠率に有意差がみられないことから，発育ステージが進み一定の細胞数が得られれば，妊娠率が期待できることが考えられた。
- ・ 上記に加え流産率においても有意差がなかったことから，当院では胚移植の指標をTE優先にしたいと考えた。